

科目名	応用測量実習				
担当教員	佐藤 雅男・稲田 巧		実務授業の有無	○	
対象学科	環境測量科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	64時間
授業概要、目的、授業の進め方	応用測量作業は社会にでると頻繁に行う作業である。そのため、確実な技術を身に着ける。				
学習目標 (到達目標)	今まで学んできた基礎的な測量技術を確認しながら、より実践的な測量技術をしっかりと身に着ける。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	応用測量の科目で配るプリントを利用するが、必要に応じて追加プリントを配布する。				
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	路線測量 仮BM設置		1年次に学んだ水準測量のおさらいを兼ね仮BMを設置する。3級水準測量の許容誤差内に収める。		
2	河川測量 深浅測量		新川と西川の交差点付近にて、深浅測量を実施し、データをまとめる。		
3	路線測量 IP杭・中心杭の設置		IPを設置し基準点から観測をし役杭・中心杭を設置する。杭打ちをはじめとする一つ一つの作業と手順を身に着ける。安全面についても理解する。		
4	縦横断測量		鳥屋野潟スポーツ公園の側道にて縦横断測量を実施、雨天時に方眼紙を使い図化作業を行う。		
5	工事測量 やり方（丁張）の設置		盛土、切土のやり方の設置を行い、その方法を理解する。また、法勾配決める際に用いることが多い、勾配定規の使い方についても理解する。		
6	路線測量 曲線の設置		盛土、切土のやり方の設置を行い、その方法を理解する。また、法勾配決める際に用いることが多い、勾配定規の使い方についても理解する。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
実習試験、提出物、確認テスト、平常点で総合評価する。			測量技術だけでなく、安全に真つぐ、しっかりとした杭を打てる等の作業手法についても伝えたい。		
実習試験30％、確認テスト30％、提出物30％、平常点10％ 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴					
建設会社にて施工管理及び測量業務17年・測量会社にて測量業務24年					